

耳心地の良い話だけでは 未来は良くなるらない

むろだて いさお
室館 勲

(株式会社 潮流社)
代表取締役社長

インターネットの普及で社会は大きな発展を遂げ、多くの情報が簡単に手に入る時代になりました。インフルエンサーと呼ばれる方々は、SNSを通して自分の発言を何万人にも届けることができます。昔はそれだけ多くの人に対して発言する場を手に入れるためには、相当な実力が必要でした。もちろんインフルエンサーの方々も努力をされているとは思いますが、以前より多くの人が発言できるようになったことは間違いないでしょう。

若者は、数名のお気に入りへの発信者の情報を信じて自分の世界観を作り上げていきます。インターネットの情報のすべてがダメだと言うつもりはありませんが、自分にとって耳心地の良い限られた数人の情報だけを信じて生きていくことは、とて

も危険なことだと思います。

私の幼少期の情報源は家に1台だけあったテレビがほとんどでした。チャンネルの選択権は大人にあるので、自分の好きな番組を見られる時間はほとんどありません。自分の部屋にいてもやることがないので、あまり興味がなくてもついている番組をとりあえず見るしかありませんでした。当時は何とも思っていないかもしれませんが、振り返ってみると、この時間で教養が身につけていったような気がします。

8月15日の終戦記念日を知らない若者が増えてきているというニュースもありますが、私が終戦記念日を知ったのも8月の戦争特番がきっかけでした。当時はテレビばかり見ていてはダメだと言われたのですが、子どもが各自のスマホからのみ情報を取る現代に比べれば、何倍も良かったのではないかと思います。

未来のためになる話は必ずしも耳心地の良い話とは限りません。例えば子どもの未来を考えたなら「早く寝なさい」「甘いものはばかり食べるのはやめなさい」「ゲームやスマホばかり見るのをやめなさい」といった教育は絶対に必要ですが、いわゆるウケの良い話ではありません。褒め殺しという言葉もあるように、褒めて耳心地の良い話ばかり言う人は、自分にとって本当に大切な人なのか考えさせられます。ネットを通して匿名で簡単に発言ができるということは、子どもが反発や抵抗も簡単

にできるということです。少しでも厳しくすると、ネットで反発される危険が増した現代では、大人も本音をなかなか言えなくなっていると思います。

ここ数年、東大を卒業しても官僚になりたくない人が増えており、その対策として週休3日制を導入するというニュースを聞き、とても違和感を覚えました。防大生の任官拒否も以前から話題にのぼっていますが、待遇が良いから官僚、自衛隊になりたいと思わせることは果たして本質的に正しいのでしょうか。もちろん仕事をする上で待遇は非常に大切です。特に日本のために働いていたたく官僚や自衛官、人の命を救う医者や子どもの未来を担う教員といった仕事は待遇を良くしてほしい職業であることは間違いありません。しかし、同時に待遇前提で就いてほしい職業ではないことも事実です。

そもそも国立大学である旧帝国大学は、優秀な国家公務員を輩出する目的で安い学費で最高峰の学びを得るために創られました。日本を守る自衛隊をまとめる優秀な幹部を育成するために、お給料をもらって学べるのが防衛大です。職業選択の自由があることは百も承知ですが、入学した以上国のために働く、という暗黙の了解を無視して、悪びれることもなく民間で働く若者を見ると疑問を感じずにはいられません。

このような現状になってしまっている原因は、中学生や高校生のときに道徳や公の教育をしていないからだと思います。高校生に志を学んでいただき、自分の人生をどう生きていくのか考える機会を増やせば、ただ良い大学に進学し、少しでも待遇の良い職場を求めて転職を繰り返す若者は減っていくと思います。

東日本大震災で自衛隊の活躍を目の当たりにして、自衛隊志願者が増えた話があります。若者はしっかりと教えれば応えてくれます。私も年間で数千人の大学生に接していますが、まだ手遅れではないと感じます。

よく政治家の方がおっしゃることですが、「未来のために今は我慢が必要と言ったら票は入れてもらえない」という言葉が印象的です。今だけを考えた耳心地の良いことを言っている人に投票が集まるのが、今の日本の現状です。そうではなく、自分たちより次世代、三世代先の子どもや孫のことを考えた提案が受け入れられる体質を作らないと、日本は良くなりません。

週休3日なので官僚をやりませんか、という耳心地の良い話で若者を集めるのではなく、若者が志を持って学べるような環境をしっかりと整えることが、今の日本に一番必要なことなのではないでしょうか。

